



認定NPO法人
ヒマラヤ保全協会

IHC-JAPAN: The Institute for
Himalayan Conservation Japan

Shangri-la

シャングリラ



ヒマラヤイラクサ の利用と森林保全



100円でヒマラヤに1本の  を植えよう!

One coin One tree on Himalayan, tomorrow will be in your hands.

植 林 事 業

バランジャ村、ジーン村、レスパル村を支援いたします！



今までの植林事業に加え、バランジャ村、ジーン村はもともと植林しなくてはいけないエリアが広大に残っているため、引き続き支援を行っています。それぞれ1万本植えるために、苗畑で苗を育てています。

←ドバ村、ベカコーラ村、ダグナム村、サリジャ村の植林地帯が植え終わり、継続でジーン村、バランジャ村、新規でレスパル村の支援をおこなっています。

GoogleEarthより作成

植林事業地の成果をみて、 レスパル村から直接支援のお願い

今回新しく植林支援を行うレスパル村（上写真の右下）は、何年も前からヒマラヤ保全協会に植林支援の要請をしていました。

近隣の村であるサリジャ村の植林地帯に緑が戻ってくるのを見ており、サリジャ村の村人達にどのようにして、どんな支援を受けて植林をしているのか直接聞きにきたそうです。

ヒマラヤ保全協会の支援とわかったレスパル村の人々は、資金を村から半分ほど拠出するので、植林支援してほしいと要請をしました。

そして、今回、ヒマラヤ保全協会
で支援が決定し、
現在は苗畑、苗畑
小屋作りから開始
しております。目標
3000本植樹を予定
しております。

→

サリジャ村で植林した木々が蒼蒼と茂り、かなりの高さまで伸びています。



↑レスパル村の方々



ミーティングを繰り返し進めています

苗畑・苗畑小屋づくりのみでなく、苗畑管理人や村人達の協力によって植林事業は進められます。

初めて植林事業を開始する村では、村長やコミュニティフォレストのユーザーグループの方々と一緒に、関係性を構築しながら、ミーティングを繰り返して進めています。



苗畑管理人によって植樹する苗が育てられます。

今後ともご支援よろしくお願ひします

植林支援は、公益社団法人 国土緑化推進機構の助成と皆様の温かいご寄附によって進めております。ご支援心より感謝申し上げます。

植樹時期の様子など引き続きご報告して参ります。どうぞ今後ともご支援よろしくお願ひいたします。

(文責：清田)



植林を支援するのレスパル村



ヒマラヤイラクサ の利用と森林保全

ヒマラヤ保全協会では、現地で自生するヒマラヤイラクサを活用した収入向上事業を進めてまいりました。このように地域住民が森林資源の活用しながら、経済的価値を得ることができれば、森林保全の持続的運営のサポートにも繋がります。この度、国際緑化推進センター（JIFPRO）の助成により、ヒマラヤイラクサに関わる事業や植生などを調査してまいりました。



糸を売る女性たち：中西部ピュータン・バハネバザール

女性たちが売っているのはヒマラヤイラクサ

(*Girardinia diversifolia*:学名)の繊維の手紡ぎ糸。10月～11月に熟し出した種が落ちる頃を因って1日ばかりで標高3,000mほどのエリアに茎皮を収穫に向かう日が10日間ほど続く。1人がシーズンに集める量は約200kg。煮炊きして乾燥した繊維を紡ぐと手元に残る糸は、わずかに48kg程。この糸を売ったお金が山岳部の

11月中旬のネパール中西部のピュータン郡、このころになると麓のバハネバザールには、ずたぶくろを担いで標高2,500m程の山から下りてくる女性の姿が見られる。ずたぶくろを持って入るのは、仲買人の家。袋から取り出した大きな糸玉をのせた測りの針を真剣に見つめる。「今月は合計4.75kgだ。」という仲買人に「5kgは絶対に超えているはずだよ、もう一度測り直して。」と突っぱねる。「いやいや何度量っても同じだ。はいNRs2,375」そっけない態度に女性たちは「測りの目もりがおかしんじゃないのかい?」と負けていない。



売ったお金で買った米、塩、とうがらし、小魚

住民の唯一の現金収入となる。このお金で米と塩、砂糖、香辛料を買い山での暮らしを続けている。山岳部の女性たちにとってヒマラヤイラクサはまっすぐに生活に繋がっていた。



収穫場所
5時間-半日、
場所によっては
泊りかけて収穫



ヒマラヤイラクサの収穫：中西部ピュータン

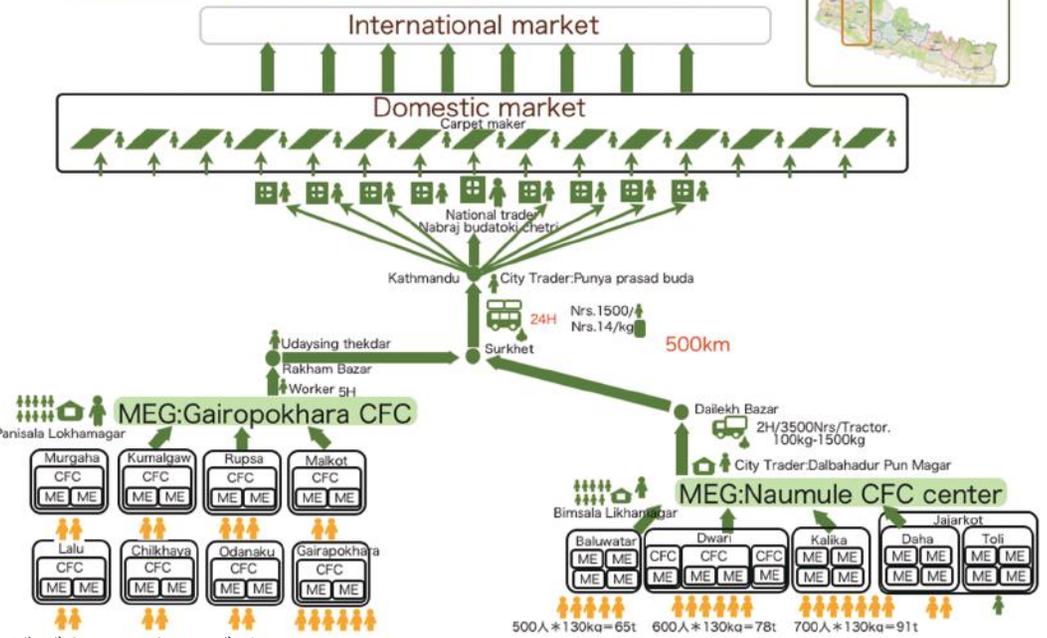
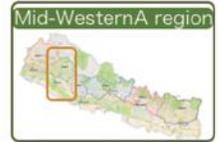
国土の40%が森林、その森に人口の約75%が住むネパール連邦共和国。この国では、森林資源を活用した事業をおこしてリモートエリアの住民に現金収入や雇用をもたらし、生活水準の向上を目指すことが国の重要な課題となっている。ネパール政府は、収入向上事業の原料になりうる国内の森林資源及び非材木林産物 (NTFPs)のうち特に注目すべき20種を取り上げているが、ヒマラヤイラクサはこの中に含まれている。2010年から、ヒマラヤ保全協会は中西部パルパット郡サリジャ村でヒマラヤイラクサの繊維を活用した収入向上事業の企業支援をしているが、サリジャ村の女性の活躍はめざましく、6年経った現在、女性たちは

自分たちの力で運営できるようにまで育っている。ネパール政府も零細企業支援策を使ってヒマラヤイラクサを活用する事業を支援しており、規模は本当に小さくはあるが活動を開始した団体が全国的に広がってきた。しかし、中には、原料が枯渇し始めた地域があるという話も耳にする。そこで、ヒマラヤ保全協会はこの度、ネパール国内でヒマラヤイラクサに関わる事業をしている住民がどのくらいいるのか、またヒマラヤイラクサ自体がどのくらい植生しているのか、持続可能な森林経営をするにはどうしたら良いのか調査をした。まず全国からヒマラヤイラクサの仕事をしている主力団体36グループを割り出し、6地域に分類し、東西を横断しながら聞き取り調査を行っていった。

直接回答を得られた18グループの回答をもとに全国各6グループエリアの生産状況を聞き出し、生産者の数や市場までのサプライチェーンを図解すると書くグループエリアに、全く別々のチェーンや特性があることがわかった。

ネパール極西部及び中西部では山岳部にはのほとんどのエリアの女性たちがヒマラヤイラクサの糸を紡いで得たわずかな収入で生活していることがわかった。驚かされたのは、その数で約15,000人もいられるらしいことがわかった。このエリアには国際協力NGOなどの支援がほとんど入っていないこともあり、会計システムやビジネスマネジメントやバリューチェーンについての知識や情報が乏しい。山岳部となればなおさらのことだ。こうした背景からこれら住民は長期間にわたって極めて非効率な状況で糸紡ぎを続けていた。

Supply chain of Area:2 (Dalekh & Jajarkot & Kalikot)



↑中西部のサプライチェーン

↓中西部の生産者たち→仲介業者→カーペットメーカー



6つに分類したエリア/極西部及び中西部の糸の流れ

この地域で生産されたヒマラヤイラクサの糸のほとんどは首都カトマンドゥに運ばれカーペット産業に流れている。その量は年間で約200トンにも及ぶ。カーペットメーカーで作られた製品は欧米諸国に輸出されカーペット産業には多額な収益をもたらしている。今後もこの規模を保持し続けるには、それを支える生産者たちのモチベーションの保持やヒマラヤイラクサ:森林資源の保全が必須となる。

今回の調査でネパール各地域の抱える課題とプライオリティ、そして解決策が見えてきた。これらを今後の活動に大いに役立てたいと考えている。(文責：戸田)

国内活動

グローバルフェスタに参加いたしました！



2016年10月にグローバルフェスタに出展し、会員やご支援者、ボランティアの方々にブースに遊びに来て下さいました！ありがとうございます！

今年は古カレンダーを封筒にリメイクするワークショップを行いました。終了後もブースに直接作りにくる方々が多数いらっしゃり、かなりの大好評でした！！



カレンダーを封筒へリメイク！！



イベント 報告☆



ネパール手すき紙の封筒作りワークショップ！

11月19日(土)
AMA 代々木店



グローバルフェスタで大好評だったワークショップを再度開催いたしました！

封筒を作成後は、美味しいダルバートをみなさんで頂きました。

ATCHA時代に参加されていた方、10年以上前からボランティアで参加して下さった方、青年海外協力隊でネパールでご活躍されていた方などがご参加下さり。とても楽しいイベントになりました。
(文責：清田)



長野県駒ヶ根市「第23回みなこいワールドフェスタ」出展☆

JICA青年海外協力隊の駒ヶ根訓練所から堀井さん、駒ヶ根市から中学生の時にネパールへ派遣された高校生達がブースにお手伝いに来てくださいました！本当にありがとうございます！



今年は、グローバルフェスタとみなこいで、ネパール産の手編み帽子（ヒマラヤイラクサとウールをよった糸でできています）を販売いたしました。老若男女問わず、どんな方でも似合う帽子でとっても好評でした！

お手伝いしてくれた学生さんたちもお似合いです！

事

務

局

だより

3月17日(金) ヒマラヤイラクサ調査の報告会

本会報の4,5ページでご案内しておりますヒマラヤイラクサの調査報告が下記の日程で行われます。一般向けセミナーとなっておりますので、ぜひご参加下さい！

メール・ホームページでも後日ご案内します。



左…ヒマラヤイラクサ
右…ヒマラヤイラクサから取り出した繊維



林野庁補助事業

途上国持続可能な森林経営推進事業 セミナー

林産物に着目した新規ビジネスの可能性

—持続可能な森林管理との両立を目指して—

平成29年3月17日(金) 14:00~17:00

TKP市ヶ谷カンファレンスセンター ホール5C

主催：国際緑化推進センター (JIFPRO)

協力：森から世界を変えるREDD+プラットフォーム,
日本貿易振興機構 (JETRO)

※当会の発表は、14:30からとなります。

寄付で支援する

100円で1本の木がヒマラヤに植えられます!!

1口 3,000円から何口でも結構です。

下記の振込み先にご送金ください。

マンスリーサポーターになる

毎月 1,000円 からマンスリーサポーターになることができます。マンスリーサポーターの皆様には、「活動報告書&計画書」年1回)をお送りします。

会員になる

年会費：個人会員 5,000円・団体会員 30,000円

会員の皆様には、現地の活動が盛りだくさんの

会報『シャングリラ(Shangri-la)』をおとどけします。

■ みずほ銀行新宿南口支店 普通2005209

認定NPO法人 ヒマラヤ保全協会

■ 郵便振替

00100-0-709154

ヒマラヤ保全協会

※銀行振込みをご利用いただいた場合は、ご氏名(ふりがな)とご住所を、e-mailにてご連絡ください。

※国税庁より「認定NPO法人」として認可されておりますので、皆様からのご寄付は、税法上の特例措置の対象となります。

100円で1本の木をヒマラヤに植えよう！ ご支援お待ちしております！

シャングリラ第98号 2017年2月9日発行 編集・発行 認定NPO法人 ヒマラヤ保全協会

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田1-6-1 早稲田キャンパス9号館 8階 808号室

TEL: 080-3570-8458 e-mail: ihcjpn@ybb.ne.jp ホームページ: <http://www.ihc-japan.org>